

1980年10月号

1980年10月5日発行(毎月1回5日発行)

No. 53

あふあて

発行人

発行所 あふあて出版部

定価 100円 振替口座

あふあての会



この切なさ 秋のせいにしろとでも
ゆりかごにゆられてたゆとうほかに
おだやかな日々

かこの格子を境のあわれみは
もう いらぬ
だったけれど

変わる私に
とまどう心は察せられる

けれど

どうぞ 背をむけないで
こちらを向いてください
私をみつめて

観念をすて 心おもむくまま

ひとりでゆくのは むしろたやすい
けれど

それぞれの生き方があるけれど
自身を生かしつつ あなたと生きたい
答えてください
私をみて みつめて

切ないままの心には秋がつきさります

詩 静岡市
イラスト 大田区

あんふあんの目

国立婦人教育会館の
託児のあり方について



九月二十五日、二時から四時半まで、国立婦人教育会館で行なわれた「世界婦人会館」の講演会に行ってきました。

国立婦人教育会館——知っていますか？住所は、埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷七二八番地。あなたは、どの辺かわかりますか？国立婦人教育会館では、0才児の保育は認めていません。又、基本的には、婦人の学習・教育の為に、幼児は夫に預けて来る事になっていきます。でも、ちょっと考えてみて下さい。平日に、どうして夫に子供を預けられるのでしょうか。二時から四時半の講演会聞きに行くのです。大田区の自宅を朝十時に出て、帰宅は夜の八時でした。それだけの手がある人は限られています。保育園へ行って、子供のお迎えだって間に合いません。一番下の赤ん坊は母乳です。誰が子供三人連れて行きたいのですか。「夫に」「地域に」と理想論ばかり言っている、現実には女と子供は、ワンセット。おむつの洗濯も、離乳食を食べさせるのも、保育園の送り迎えも女達の肩にしっかりとくい込んでいます。今の

この社会で、乳幼児を抱える母親達の学習及び社会参加というものは託児を抜きにしては考えられないのです。コペンハーゲンでの婦人会議では、女達が乳幼児を抱き、乳を含ませながら、託児室の設置を要求しながら、会議を進めて行ったと聞いています。今、私達が行動を起こそう、イキイキしようと思う時託児にこだわらずにはいられないのです。

日頃、私達が活用している婦人会館、公民館、区民館等の社会教育施設のトップに立つものとしての国立婦人教育会館を見る時、社会教育施設のトップとしての託児のあり方にこだわらずにはいられないのです。せっかくあんな素敵な保育室があっても職員には保育の資格者が二人もいるのです。なんとか会館側にも歩みよってもらってやって行こうではありませんか。

それにしても、国立婦人教育会館はなんて遠いのでしょうか。距離的にも精神的にも、特に子供には。あれではまるで島流しか陸の孤島の様。四才の娘は「大きい婦人会館には、もう行かないよ」と断言。母ちゃんは、ため息。ため息。今年の秋から来年の春頃に再び国立婦人教育会館での合宿を予定しています。その時点で又、託児室の問題へはしつこく関わっていきましよう。私達がやらなければ、どこの婦人団体も誰もやってはくれないのです。社会教育施設のトップに立つ会館が、どれだけ乳幼児を抱えた女達を拾う気があるのかやってみようではありませんか。(井上)

クリスマスパーティー
「はじめのいっぽ」へ
きてみませんか？

コンサートをやるうよと声かけてから一年、紆余曲折ありまして今のコンサートスタッフは四名になりました。やっとなんか感じでクリスマスパーティーを催すことになりました。たった四名のスタッフですが、これからぼちぼちやっていくという事で、チーム名を「ぼちぼち」ということにしました。もちろんこれからスタッフに加わってぼちぼちやっていくという方、大歓迎です。

さて、クリスマスパーティーの事ですが、十二月十四日の日曜日に十二時から三時まで食事つきでやりたいと思っています。場所は今のところ「ジョラ」を候補にあげています。費用は大人一人につき千三百円、子供一人連れてきて千五百円、二人連れてきて千六百円を予定しています。中味はいろいろ考えてます。あけてみてのお楽しみ、きてのお楽しみというところです。もちろん今まで集めたコンサートの報告もする予定です。集まった詩の朗読なんかもやろうと思ってます。何か表現したい人、発表したい人はもちろん飛び入り歓迎です。コンサートチームが、「ぼちぼち企画」に変わって初めての催しです。というところで「はじめのいっぽ」このクリスマスパーティーに行ってみようという人は十一月末日までに事務局へ申込んで下さい。先着順五十名まで受け付けます。

企画「ぼちぼち」

グループあれこれ でいんだんどん の 場 合



共同保育したところ、そして今……そのII

小平市

全く個人的な視点ですが、地域について、そして家事や育児の共同化という点を頭において、「でいんだんどん」のころをふりかえってみたいと思います。

斉藤次郎氏の「子どもを見直す」という本の中に「子どもが生まれる前は、勤め先の都心と、郊外の住宅とを往復する、いわば点と点を結ぶ線のような生活になりがちだったが、子どもが成長するにつれ、地域の住民としての生活が広がっていった」という様な内容の文章がありました。私の場合もそうでした。子どもが生まれる前、共働きでアパレルの2DKはただ単に眠ったり、食べたり、体を休めるための場所にすぎなかったのです。近所つきあい等ほとんどありませんでした。ところが妊娠してから、近くの商店で買い物をし、公園のベンチに腰をおろし、散歩する生活になり、子ども連れの人と顔見知りになったり、やがて長女を出産し、生活する場はますます住居の近くに限定されてき

した。当時の住居にはお風呂がなかったため、毎日銭湯通いでした。大きな風呂敷に着替えやタオル、ジャージ等をつめて、三時ごろ出かけ銭湯の前に並ぶのです。そこは、いろいろな赤ん坊をながめることが出来、若い母親にとっては唯一の交流場所でした。あまり社交的でない私には、世間話をできる様な知人は、ほんの二三人しかいなかったかも知れません。

そのころ情報誌で、近くにある「でいんだんどん」の存在を知り、出かけて行きました。六カ月の長女を背負って初めて訪れた共同保育所「でいんだんどん」には、二カ月の赤ん坊から六才児までの子どもが七、八人、思い思いに遊んでいました。外にいる子、絵本をみている子、絵を書いている子。一人の大人が「遊びたい」ということを心ゆくまでやらせてやりたい」と言ったのが印象的でした。そして、「カリキュラムは？」と質問すると、

「そういうことはゴチャゴチャ考えません」という返事が来たのです。「言葉より共に生活する中でその人を判断します」とも言っていました。見る人見る物めずらしく、大人も子供もおもしろく、是非ともやりたいたいと思ったのですが、今思うと、孤立した生活をしていた親には最適な刺激だったかも知れません。近くといっても、電車とバス、歩きをいれて約四十五分、ヨチヨチ歩きにつきあうと一時間は優にかかる距離なので、時には通うだけでグッタリしましたが、家事、保育を当番制でやっただけで、子どもと遊ぶ日、食事作り、集中する日、一人自由になって外出する日、とこまぎれでない一日が過ごせたので

す。様々な作業が断続する家事が苦手で、実には要領の悪い私は、教わる思いでした。大量に購入し、作るので食費もかなり安く上っていました。週のうち五日間、朝九時ごろ出かけ、夕方帰る生活の中で、娘は朝になると「パパ、もう会社に行くの」と言う始末、それでも親子とも少しも不自然さは感じなかったのです。娘は一番チビだったので、皆に末っ子同然にかわいがられ、もまれて、明るく育ってゆきました。

やがて、グループは人数が増え、そして分裂。突然その生活は終わってしまいました。(その間のことや、原因については未整理であり、書けません。いつか書けると思っています。)

そして、再び赤ん坊を抱え、四才になった娘とすすす今は、近所の遊び友達や、その母親達の存在がとて大きいのです。子どもを介して自然に広がったおつきあい、ちょっとした用事や、買い物時は、ほとんど子どもを預けたり、お願いしたりしています。親だけでは子どもは育てられないことを実感すると共に、改めて孤立せずに共に暮らす地域の大切さを認識しています。そして、互いの生活や心情を尊重しつつ、心を開いて話し合うことのむづかしさを知った「でいんだんどん」の体験を無駄にしない様、心がけています。いつか矢野さんが書いておられました——自己と他の違いを知るによって、自分を見つめられるようになる——その体験を。(子どもと大人のかかわり——共に育つことについて、次回書きたいと思っています。)

これからのあんふあんて

その2



△グループ交流会▽

参加したグループは東村山のどんぐりっこ、小田急線千歳船橋周辺のねこじゃら会、西武新宿線の井草グループ、吉祥寺周辺の武蔵野チロリン村、根岸線のブーフォーウー、足立区の竹の塚グループそして新宿母子家庭部落の七グループでした。

まずだされた問題は「場所」、どの様な施設を利用しているかでした。この問題はどのグループにとっても大きな、たえずつきまとう問題です。会員の自宅開放の他団地の集会所、公民館そして児童館の利用が圧倒的でした。その他の公共施設にあげられるのは、区民センター、福祉会館などがあるのですが、これが現在の状況としてはなかなか利用しにくいのです。このような施設を利用していく上でのグループがかかえる問題点のいくつかがだされました。

ひとつには、団地集会所の利用の場合です。世田谷のねこじゃら会などもそうなのですが、集会所を利用してすでに三年以上になるにもかかわらず、最近この利用が難しくなってきたそうです。というのも、引っ越しなどによる変動でその団地の住民であるメンバーが殆どいなくなってしまう、団地の住民以外の人々が使用することに反対の声がでてきたのです。ねこじゃら会の場合、共同保育と自主幼稚園の部分とに分かれていて、自主幼稚園の部分だけでも十数名いるので、場所については特に大きな問題といえます。現在は野外の他児童館を利用してはいるそうですが、これについても問題がないわけではありません。児童館の現在の状況では、昼食時、館内にいる

ことはできません。しかも館内で食事をとることはできません。(ねこじゃら会の場合、黙認という形で、実際には両方とも可能であるわけですが)特に雨の場合の利用を考えると、昼食時に館内にいられないということとは甚しく不都合であるのです。ですから、まずと、児童館の利用方法は既定されてしまっているのです。現在の児童館は学童保育が中心となっていて、学童保育のない午前中だけならば大いに利用してくださいというのです。けれど世田谷区の場合のように、児童館が少ない地域で、距離的にはなれているところから利用する場合、昼食時に館内にいることができないという既定は現実には即したものとはいえませんが、しかも児童館によって黙認という形をとったり、また規則一点張りというのでは、利用者側にとってみれば、児童館のやり方次第で使いやすくなり、使いにくくもなってしまうわけです。これではちっとも市民にとつての施設とはいえないのではないうのでしょうか。もっと使う立場にたった児童館が私達には必要なのです。そしてこのことは、後にでてくる来期案とも関連してくるのですが、こうした市民ベースでのやり方あるいは意見をあんふあんてとしてもだしていく必要性があるようです。外に向かつてのアピール——このことがひとつの方向性をしてできたようです。

まだ九月というのに晩秋を思わせる寒さの中、来期案決定交流会が行なわれました。各グループから必ずひとり、という呼びかけだったのですが、集まったのはわずかに七グループとグループに属さない会員二名そしてスタッフ七名でした。

今回の交流会は先月号「これからのあんふあんて」にのせられた来期案を検討するということとで開かれました。全体の感じとしては、項目別に決をとるというのではなく、前半がグループ交流会そして後半が来期案をという流れでした。

く、メンバー自身の状況によっても大きな違いがあります。0・1歳児が多いグループ、妊娠している人が続いた場合、あるいはリダイナミックな人の病気等で大変さだけが前面に出てくるケースもあります。そうしたときに絡み合ってくるのが「意識の違い」ということです。グループに参加した動機も各自バラバラであったかもしれないし、それぞれの状況も違うし、またグループへの思い入れも各人各様だし……というわけで、考えようによっては、この違いをどう生かしていくかが自主活動を進めていく上でのきめてでもあるようです。

半年すぎた頃のグループでは、0歳児をかかえて通ってくるだけでも大変で、そろそろ疲れの見えてくる時期でもあります。このような時に、メンバーの思い入れの違いがでてくるのです。中には、大変さを大変と感じず、なにがなんでもやるんだという人もいれば、なんのためにこんなことをしているのかしらと疑問に感じだす人もいます。こうした違いをうずめていくには、確かにリーダー的な人の存在も必要かも知れませんが、それ以上必要とされるのが、メンバー間のコミュニケーションです。こうした話し合いの中から、その人なりの解決の糸口を見つけることができるかもしれませんし、またそれをきっかけとして息をふきかえすこともできるかもしれません。半年目のグループだけでなく、一年目は一年目のあるいは三年たった三年たったそれなりの問題は必ずあります。その時にぶつかる壁をどう切りぬけていくかが、グループにとつても、またメンバー各自にとつても

もそのグループの存在価値がでてくる時だと思えます。



△来期案決定▽

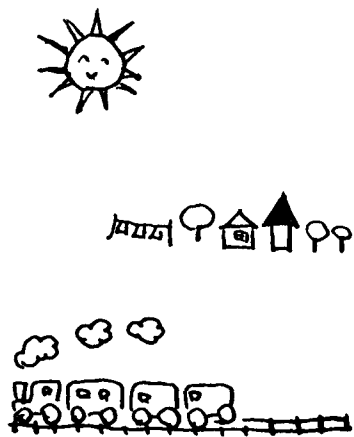
これまで一年毎に来期案が出されていましたが、今回の交流会では、来期案をするのではなく、これからのあんふあんてにとつて方向性が本来に必要なのか、必要だとすればどういった方向性に向かうのかということに話は集中しました。

あんふあんての特徴は何といってもそのはいりやすさにあるわけですし、また小さな子どもがいても活動できる場であり、その事自体を生かしている場でもあるのです。そういったあんふあんてにひとつの方向性が必要なのか？もしある方向性をだすと、今までのはいりやすさという良い面が消されてしまうのではないかと懸念がやはりでてきました。しかしこれまで五年間、ひとつの方向性を明確に打ちださなかったことが、会員自身、方向性をつかめずやめていくということにつなげた場合もあるのです。だからといって今すぐ「この方向性に行こう！」というのではありません。ただひとつ現時点でいえることは、児童館のところであげられたように、外に向かつてのアピールをしようということ。小さな子どもたちをかかえての私達なりの目をもっているのですから、この利点を児童館の問題に限らず生かしていくこと。た

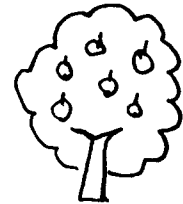
たとえば国立婦人教育会館の託児についての問題もそのひとつです。実際、小さい子どもも私たちのいる私達が学習していく場合、託児は不可欠ですし、かといって託児の表示がなされた催事というのは殆どないわけで、こちらから問い合わせをしない限り託児の有無を知ることはできないのです。こうした意味において外に向かつてのアピールを今まで以上にしていくことが必要だということになりました。

また、先にだした「はいりやすさ」ということと方向性との関連についてなのですが、今までマスコミなどでとりあげられたことをきっかけとして入会した会員も多いようですが、これについては、これから一年位は避けていくということを確認しました。またひとつの方向性をだすことも含めて、ある程度の会員の変動があったにしてもやむを得ないのではないかといいことになりました。

今すぐにはどの方向かということにはなりません。これから一年間じっくりとこの問題にとりこんでいきましょう。(色川)



あんふあんの お金のこと



△まず、決算報告を△

あんふあんででは、最初に保険をつくった時、一九七五年十月から参加費による運営を始め、十月から翌九月までを一年度とし、毎年十月号から十一月号で決算報告をしています。少なくなると一年に一度くらいは、ジーンと数字をみつめ、会の運営の基盤となっているお金のことに思いをはせて下さいね。

(79年10月1日/80年9月30日決算報告)

●入の部	合計
①参加費	23361495円
②雑収入	231850円
●出の部	合計
③情報誌印刷費	2373255円
④情報誌郵送費	601200円
⑤事務人件費	4579900円
⑥事務局家賃	6000000円
⑦事務印刷費	2400000円
⑧事務通信費	629800円
⑨事務用品費	334800円
⑩スタッフ交通費	154850円
⑪資料費	1718900円
	417600円

⑫雑費 64900円

⑬保険料 1419800円

●今期の収支は、赤字 117600円

●前期からの繰越 合計 1046857円

⑭現金 93536円

⑮郵便口座 108250円

⑯普通預金 921371円

⑰未入金 437000円

⑱未入金 1200000円

●次期への繰越 合計 1035097円

⑲現金 215831円

⑳郵便口座 173960円

㉑普通預金 637706円

㉒未入金 76000円

●今期の増減は、減 117600円

△入の部について△

①参加費は一月平均194321円で、八五パーセント平均の納入率という事になります。これは何月分かとみてみると、約四割が来期分で、六割が未払分という割合です。特定の財源スポンサーも借金できるあてもない、又、ほしいとも思わないけど、あんふあんでとして、ひたすら会員の参加費の先払い資金にのり、資金繰りをし、運営していくしかないのだから、少しづつでも先払いしてほしいということなんです。

②雑収入というのは、預金の利息17335円、事務局にあるミニコミ販売18500円、去年のTシャツ販売20000円、カンパ84600円という内訳です。今までの五年半間をふり返ってみても、イベントなどを活発に企画し試みた方が収支もいいのは明らかなので

すが、昨年あたりは各スタッフのいろいろな事情もあり、どうにも力不足で消極的になってしまったけれど、思い切って今年は前向きにと考えています。

△出の部について△

③情報誌印刷費は二月号までは490000円、三月号からは530000円で予算の500000円をオーバーし、十二月一月合併号は800000円、来期アンケート同封の七月号は600000円でした。

④郵送費は一月平均41662円でこれも予算350000円をオーバーしています。ミニコミ交換で送っているグループ三十ぐらいを含めて、八百通前後を毎月送っています。会員にはいろいろな事情を考慮して、期限切れから一年未満までは送ることにしています。

⑤事務局の人件費予算は月最低400000円、資金繰りのよい時には500000円と二段構え方式でした。とりあえず最低保障分を毎月支払い、八月の仮決算をみた上で各月プラス100000円を支払いました。

⑥家賃は、光熱費や電話料を含めて月20000円を一部屋(会議の時は三部屋)借りている大山宅に支払い、予算通りです。

⑦事務印刷費は情報誌以外の入会資料などの印刷物のことです。

⑧事務通信費は電話料と情報誌郵送料以外の切手代などです。

⑨事務用品費は名簿用紙や伝票などです。

⑩スタッフも交通費だけは確実に支払うようにしていこうということで、月平均14324円で予算の200000円以内ですみました。

⑪資料費は、今年は大物「日本消費連盟10年の歩み(上下)」270000円を購入し、その他月二回以上発行のミニコミを二誌、購読料を払っています。

⑫雑費は郵便口座の現金化手数料とTシャツ郵送未着不明損害分です。予算としては、⑦⑧⑨⑩合わせて月100000円だったのですが、平均13349円とオーバーでした。

⑬保険料は住友のは今の条件で会員千名まで1000000円とイベント用2000000円。今期から支払うことにした免責300000円以内のものが一件19800円と、公的医療機関と認められていない整体による治療のもの200000円ということでした。

△収支と繰越について△

つまり今期に限っていえば、117600円の赤字であったのです。が、前々からの残りが繰越されてきていて、次期への繰越は1035097円もあり一安心。ただ①の参加費のところで述べたように、来期分が四割だと考えると、繰越のうちの四割のみが本当の意味での次期繰越高になり、六割が今期中に使って消えてしまってもいいものということになります。(ワカスカナ?コソントコ)

②の未入金は今月のチロリン村Tシャツの分46000円と、去年のTシャツの分30000円です。

⑦の未入金も去年時点でのTシャツ分です。

⑩の未払金は去年時点での未払だった人件費調整プラス分です。

△参加費値上げについて△

前から検討を進めている値上げの理由としては、(1)郵便料金の値上げ、(2)交通費等の値上げに伴う恒常的収支の赤字、(3)人件費アップ、(4)編集の活性化のための取材費確保、(5)イベント企画のための準備費確保、という五つがあります。

(1)は小包料金だけ十月から上がりましたが、他のものは、法案が国会を通過してからで、大体三月か四月か、封書は二十円上がるみたいです。又、第三種は、内容を特に変更せずに、別な窓口の人に、あんふあんでからも別な担当の人が交渉して試みようということになりました。

(2)は今期は若干の赤字です。そして交通費他諸物価が次第に上がっていることは充分実感なさっていることでしょう。上げないとやり切れません。

(3)については、九月交流会でも安すぎるという声でしたが、仕事内容と量、労働する条件等を含め合わせ、専従は最低限の部分だけで、会員やスタッフに少しづつ拡大分担していく方針を基本的にとっていきたいと考えています。又、専従は誰でもできる事務屋さんではないので、今またま適任という人の状況も加味されていくべきでしょう。

(4)と(5)は、いつまでもできないで終わってしまうのではなく、五年・十年先と長い目でみてみると、たとえ今期中に実を結ばなくても、先行投資をして、積極策へ転回させたいと考えています。

値上げ巾としては、九月交流会でも、A案300円、B案350円、C案400円で、九月末時点の会員数七二八名、納入率最低七

〇パーセント、平均八二パーセント(八月末の数字)、最高一〇〇パーセントの三通りで検討した結果、350円だと一〇〇パーセント納入でないと苦しく、400円で平均八二パーセントでもやっとなという線です。それで、月4000円と決定しました。

△予算案決定△

●入の部	合計	月
a 参加費(前項参照)	23361495円	2460000円
b 雑収入(タンバ大歓迎)	720000円	720000円
●出の部	合計	月
c 情報誌印刷費	5300000円	2460000円
d 郵送費	5600000円	5300000円
e 保険料(免責額内もいれ)	1300000円	1300000円
f 事務費	1000000円	1000000円
g 家賃(光熱費も)	2000000円	2000000円
h 電話料(管理応待も含め)	7000000円	7000000円
i 人件費	5500000円	5500000円
j スタッフ交通費(十三名)	2500000円	2500000円
k 編集取材経費(前項参照)	3000000円	3000000円
l イベント企画準備費(〃)	3000000円	3000000円
m 予備費	1000000円	1000000円
●入の合計	41760000円	41760000円
●出の合計	41760000円	41760000円

拒診健時学就 二年目に あたって



北区、埼玉グループ

昨年、長女に就健の通知が来た時は、何の疑問も持たずに当然受けるものだと思っていました。それが、健診日の二日前に、「共に学ぶ教育をめざして」集会に出席し、「普通児」と「障害児」をふり分ける手段だと言う事を知り拒否しました。拒否をしたあと、教育委員会や学校からいやがらせの電話が何度かある、という事を知り、しばらくは不安な日が続きました。また、入学したあと、子供が特別視されるのではないかと心配もありました。しかし、何の連絡もありませんでした。そして就健を受けた人からは、十二月中旬に入学通知が来たのに、私のところには、一ヶ月遅れの一月に届きました。入学した娘は心配したような事もなく、楽しく学校に行っています。年子のため、また今年も下の子の就健の時期を迎えました。

「共に学ぶ教育をめざして」集会で、障害を持つ子のお母さんたちが作っている、一緒に考える会の人たちと交流を持つようになり、地域として現在障害を持ちながらも、地域の学校に通わせているお母さんから、最初は通じ合えない事もあったがだんだん子供同士わかり合える様になり、できない事があれば手伝ってくれたりし、地域の学校に通わせてよかったと言う話を聞きました。障害児は養護へとふり分けてしまう事は、子供達の中に理解し合える場をなくしてしまふ事だと言う事を知りました。そして、「障害のある子も障害のない子もみんな一緒に地域の学校に通い、一緒に学び遊ぶ、それが子供にとっても地域の人たちにとってもよい事だ」とだけ思っていました。が、単に障害児だけの問題ではなく、普通児にとっても就健はよくない事だと思ふようになりました。それは健診日のほんの二・三時間の間に、子供たちの態度をみて、「すぐれてる」、「普通」、「劣っている」などと評価するのは問題があると思ふます。聞かれた事に早く答えられる子もいる。早いからいい、遅いから悪いなど言う事はないと思います。人間にはそれぞれ個性があり、一律に評価できないのではないのでしょうか。ひとりひとりの発達はその個性によります。比較するために何らかの基準をおき、子供を評価する就健は、なくしていくべきだと思ふます。ただ、障害児も普通児も、「共に学ぶ教育をめざす」場合、就健をなくして行くだけでは、片手落ちだと思ふます。今の学校は、障害児の受け入れ体制がなく、入学してきた場合は、担任の先生一人の努力のみと言う事です。就健拒否だけでなく、今の学校のあり方を改善する運動も共に、やった方がよいのではないのでしょうか。

たとえは障害児教育
上映会
―豊中の教師と子どもたち―
・11月16日(日) 午後と夜 2回上映
1時45分(映画は1時半〜3時)
6時半〜9時(映画は6時半〜8時)
※上映後、話し合い。託児は午後のみ。
なるべく託児なし者は夜の部へ。
・北区豊島五丁目団地・8号棟A4集会室
(京浜東北線王子駅よりバス5分)
・参加費 400円(チケットは事務局に)
・託児 午後の部のみ。申し込み必要。
・申し込み・問い合わせ あんふあんて事務局

左記の映画を観て

練馬区

タイトルの中の「たとえは」の文字が示す通り、これはあくまでも教育問題全般の中のたとえは一つの問題提起としてあるのだと思ふ。落ちこぼれやいじめっ子の問題、etc. 評価され、分けられ、押しつけられ……。どんなモノサシによる評価なのか、どんな子がイイ子とされていくのだろうか。
障害児が地域の普通学級に通う。クラスに席があり、通常の担任以外にマンツーマンで担任がつく。その子に応じて、クラスで一緒に授業を受ける。その子が授業内容を理解できているかどうかは怪しい。クラスの授業は遅れがちだろう。しかし、その子への対応を含めた授業はまぎれもなく、教育だ。学校だ。障害児の親たちのカリキュラム否定へのキッパリした態度は、中途半端な私たちの気持ちへの起爆剤となるだろう。観てほしい。

あんふあんて
から
あんふあんてへ



朗読ボランティアの講習会に出掛けて

大田区

乳児を持つ身としては、出たいけれどもどうしたらいいかと悩んだが、スタッフの井上さんの「町へ出よう」のアドバイスに勇気づけられ参加することにしました。八回あるうちどれだけ出られるかとても心配。けれどもうまく具合に親子読書の会のメンバー三人で組んで、出られない時はレポートで補習し合うことになり、何とかやれそうなお目途が立ちました。本当にエイッと目をつむってやり出せば何とかなるものです。

初日は、日本初の点字による公務員試験に合格し都立中央図書館で視覚障害者サービスにあたっておられる田中章治さん(御自身も全盲で盲導犬を連れて、点字書を読みながら解説)のすばらしい講義ぶりに驚かされました。たくさんさんの隠れている現実を知るにつけて、改めて我々の身辺に多くのあらゆる障害を持った方々が生活しているという認識を持ちました。彼等はいったいどこにどうやって同じ時代を生きているのか。不思議な程出合うことの少ない私達の生活が何か大きな力に圧迫され、ゆがめられているように思いました。私の家の近くには労働災害により人生半ばで身体に障害をもった方がたくさん入院している

病院や身障者アパートもあるのですが、本当に彼等の姿に出会うことが少ないのです。図書館でもほとんど会いません。(ここでちょっと自慢したいのですが、私の利用している大田区立大森南図書館は本館に開かれたすばらしい図書館だと思ふます。館内には車椅子や身障者用トイレや、職員の方の民主的サービスから、とにかく私の目にはとても良く映るのです)その理由がちょっとわかったのです。問題は図書館までの道路状況です。目と鼻の先へ行くにも車椅子は段差があるとダメなのです。もちろん点字ブロックも音の出る信号機も無いのですから目の不自由な方も来れません。

少し前にやはり公園に車椅子や乳母車が入れるように構の取り付け方を配慮してほしいと区長さんとの話し合いで申し出たのですが、まだ色良い対策が講じられないようになっていますので、今後はスロープのことも合わせて要望してゆこうと思っています。(公園の構云々は、実は五年前にも別のグループで取り組んだのですが、公園課に出くわしてそのままになってしまいい残念に思っていたのです。今度こそ積年の恨みを晴らせたらと神頼みしています。大田区の方で同じように思ふ方がいたら、ぜひ区役所に電話して下さい。応援をお願いします)こんな具合に、ちょっと何かしようとする、たくさんおかしな事に出くわします。現在着々と通別教育が進められてゆく中、ほうっておくと私達は障害を持つ人と接することも無く過すことになりかねない。あらゆる障害者を差別することは、自らの人間性を否定することになると思ふ。そ

れが例えば、体制側から押しつけられた消極的、受身的なものであっても、我々の人間としての権利が奪われていることになる。とにかく難しいことはわからないし、それを全部勉強してからじゃ遅くなるから、ちょっと捨て置かれてる女の立場を利用(?)して、疑問を投げかけてみるから初めてみたかどうかだろうか。そうしてうまく連絡して、或いは連絡できなくともそうしたいと思ふ続ける行動に移していく。今は、おかしな事をばっさりおかしなという女の目が必要な時だと思ふ。せめて最後の砦として自分の感性だけは信じてやりたい。まあこんな風にいろいろ考えることの多い一日でした。

ちょっと聞いてみたいこと

市川市

「暮らしの手帖」66号についての文章がありましたね、以前には松田道雄さんの本についていろいろな意見がありましたね、そのような場合、この会報を出版社などに送っているのですか? 私は送った方がよいと思ふます。相手の意見も聞いてみたいから。別の事です。が法律によると夫が死んだ場合の妻の相続分が1/3から1/2に変わるとか、財産を持つ妻が先に死んだらどうなのかと疑問に思っていたところ、週刊誌の「政府公報」の欄に「配偶者」とあって納得した思い。



現在、6才、4才、1才7ヶ月の三人の子育て真っ盛り中。家の中にとどまらざるより、すこしでもチャンスをつまみつけのがさず出かけています。6才と4才の娘は、どうにか手がからなくなってきたのですが、末娘がまだまだ。講演会、幼稚園の会、会社の家族会、etc・etc・行く先々で託児所をつけて下さい、と言っています。

新幹線の件は、成功したみたいだから。具体的には、保母学院の学生などにたのめばよいと思います。費用は1人100円位。お礼と折紙代くらいは何か集まれば出ると思います。しつこく言っていれば、そのうちわかってくるでしょう。

あんふぁんて入会後四年たって

京都市

東京から京都に結婚して来て五年。あんふぁんてのメンバーになって四年です。長男が二才の頃京都あんふぁんてメンバー六人で共同保育を一年程したりしていました。今はベビー会員の形で毎月定期的に送られてくる「あんふぁんて」に接するのが楽しみです。また、このかわいいうべーを刊行される方々の御苦労を想像し感謝している次第です。ススターフッドの楽しさ、ねばり強さが伝ってくる紙面が、他の新聞や会報にない雰囲気をもっているのが好きなんです。この夏の属する女性研究会で合宿をしたときも四人のあんふぁんてメンバーが子連れで参加しました。

女性が仕事に家事・育児に・地域にかかわるなかで男性とは異なった部分をもち続けら

れるとすれば、そして将来は男性も又この仲間に加わるべきだと思ふのですが、それは経済的利害関係のかかわらない人と人とのつながりだという感じがしています。仕事はもちろん、金のかかわる話が多いこの頃です。もちろんそれなくして生活できないことは百も承知なのですが、子供の教育も金銭計算が先立ち、将来より収入の高い職業につくことが教育の目標のようにさえなっているのを見ておかしな感じがします。先日も町内会の会費が三百円から五百円になることを拒んだ人がいて値上げできなかった、という話を聞いて、何か形のある、自分に直接的利益をもたらさない限り一円も出さない、という徹底した経済主義ともいえるものに唖然とした次第です。

あんふぁんてを通じて知人になった人々はこの経済主義に汚染されていないことにとてもしつこく、なものを感じ、そしてそういう人々の中で子育てや創造的活動で社会的通念をふくまなかった人に出遇うのを楽しみにしています。あんふぁんての会報が断えることなく定期的にポストにはいつていてというそれだけで自分のまわりには経済主義に汚染されず、人間らしいつながりを求めている女達、男達のネットワークがあるという心の支えになっているのです。そして女性の悩み喜びの一葉がその中にあるということが、ときには何よりのエネルギー源になる事があるのです。

編集から発送等々骨の折れる作業に手間を惜しまない方々にあらためて「ありがとう」と申し上げて、これからは私のようなベビー会員の為にがんばって下さい!!

図書コーナー



★「お産の学校」

中央線の西伏駅の近くにホビット村があります。そこで月二回ほど「産婆の学校」が開かれています。私がその学校の存在を知ったのは、第三期の学校の終わりでした。二回しか通えませんでした。すぐこれだと直感し、産婆の三森さんの所で産もうと決心しました。というのも友達から病院での非人間的なお産をさんざん聞かされていたからです。

例えば自然に産めば会陰など切開しなくてよいのに、病院ではほとんど90%ぐらいは切られてしまう事。日祭日を避ける為に、病院の都合の為に陣痛促進剤を飲まされ、早く産まされる事。早く産むため難産が多い事。陣痛が弱いため、分娩室で一日ほっとかれた人の話など、まだまだ上げればきりがありません。

ほんの一番前までは産婆さんがとり上げ、柿の実が熟してポトッと落ちる様、時期を待ってから産ますのが当たり前だったという話を聞きます。自然に従えば、無理なく産まれるのが、人間の体・動物の体なのです。それが最近の産院では、薬や注射、そして機械にたよりすぎている点が多いように感じます。

学校では、大きなお腹をした人達三十人位が、自由に座って三森さんの話を熱中して聞いていました。ラマーズ法に対しての疑問がどんどん出され、それに対してどんどん答えられていました。私の不安もとけてきて、ゆ

ったりとした気持ちになってきました。ラマーズ法とは呼吸に集中する事によって、お産を楽にする方法です。痛みを集中すると上けに痛みが増す事を、日常経験しますね。

呼吸法でやると酸素を赤ちゃんにいっぱい送りこむので、赤ちゃんも楽だし、母体の方では酸素を充分に取り入れる事により、組織自体がやわらかくなり無理なく産めるのです。実際に産んでみて経験しました。学校でお産の仕組、経過を勉強したので、どこでどうなるか、どの呼吸法を使えばよいかわかり、冷静に対処出来ました。楽しく感動的なお産でした。

それにさらに良い事は連れ合いが、必ずのようにお産に立ち合い、一緒に苦しみ、一緒にホッとするという事です。二人で作ったのだから当たり前といえばそれまでですが、普通の産院では、取り上げてくれないのです。一緒に産んだという実感から、連れ合いは、かなり積極的に子育てに関わってくれます。

この本は産婆の三森さん、お産の学校卒業生、BOC出版部の三者によって出来ています。三部構成になっており、一・二部は三森式ラマーズ法の解説です。三部はラマーズ法出産体験記で六十四人の声が載っています。私の同期にあんふぁんて会員の野村さん、私と同期に四入目の出産でした。私も体験記を書きました。

出産する前にこういう本が欲しかったと思います。というのも出産書はたいいてい男性側から書かれており、妊娠中の精神的・肉体的不安、イライラ、心配事は男性にはわからないからです。体験記はそれらの問題をどのよ

うに考え、解消したかがわかり、胸に真に迫ります。

友達、近所の人々、全世界の人々（大袈裟かな？）に読んで欲しい本です。

「お産の学校」BOC出版部 千五百円

なお、この本に対し、疑問・質問があれば、どうぞ私のところへお電話かおたより下さい。

★「にらめっこしましょ あっぶっぶ」

一九七四—七九 かつばのいえ

無認可の共同保育所という言葉を耳にしたことがありますが。戦後、公立私立の保育所が整備される以前から、子どもを産みながら働ける女たちやそれを支えようとする母たちが主体となつてつくられ、あらゆる困難を克服しながら維持されている保育所です。

かつばの家も歴史は短いけれど、それらの共同保育所のひとつ。タイトルの示す通り、大人と子ども、子どもと子どもが互いに目を見あわせ、笑ったり泣いたりした五年間の記録です。

かつばの家の保育の特徴は「自然流」。外遊び中心の保育、親・保母（親であり保母であること）と子どもとの関わり、保母のこと、病児保育、障害児保育等とれをとって、わたしたち、子どもたちが不自然さを強いられたものに対して、「ちょっと待ってよ」と言いつつ、自分なりの感性を基本に自分たちなりのやり方を探して続けてきました。

そしてこの感性は、必要以上に複雑化、管

理化された社会で子を育てる男たち女たち誰もが常と呼びまわしてほしい感性であると考えます。

そのような意味で、共同保育をしているグループ、あるいは個人で読んでみて、感想を話しあってみて下さい。

かつばの家は現在、吉祥寺駅近くであいかわらず「にらめっこしましょ あっぶっぶ」の毎日が続けながら、この五年間の総括をふまえ、認可保育所設置への運動に取り組んでいます。興味のある方はどうぞお立寄りください。

パンフレット申し込みは定価八〇〇円（送料一部一六〇円、二部二〇〇円）同封の上現金書留で左記まで。

武蔵野市吉祥寺本町二ノ三四ノ一二 かつばの家保育所 〇四二二—二二七九

★「女性学年報」 創刊のお知らせ

日本女性学研究会（女性学年報編集委員会）から「女性学年報」が、この十月末に発刊されます。日本で初めての女性学をテーマとした論文、エッセイ集です。B5版130頁で八百円＋送料二百円です。多くの方に読んで頂き、又来年の号へも御投稿頂ければ、そして御批判、御意見下されば幸いです。



情報コーナー

★ベビィンター求む 湘南方面の方
6才(小学校一年)の女子一人、午後二時か
ら七時位まで、月に2/3回、時給500円位。

★木製ベッド、コタツ、桐のタンス(明治か
大正のもの、かなり古い)譲ります。

★埼玉地区、私の近所で、「ヘルパー求む」
という人がいたら、TELして下さい。

★ベビィベッド、コンビラック、歩行器譲り
ます。取りに来て下さい。

★吉岡しげ美レコード発売記念コンサート
女性詩人(茨木のり子・新川和江・高良留
美子など)の詩を作曲して発表してきた吉岡
さんのレコードが、十一月五日キングよりで
ます。「私が一番きれいだった時」「私をた
ばねないで」「女の子マーチ」などなど、女
の感性で歌いあげた唄がたくさん入っています。
ぜひ聞いて下さい。レコード買ってくださいね。
発売を記念してコンサート開きます。
11月7日 アウラにてPM七時より 千円
11月9日 渋谷ジャンジャンにて
PM二時より 千三百円

事務局から

●十月から参加費が四百円になりましたので、
既に振込まれている今期相当分の有効期限内に
訂正が必要です。今回同封した新会員証(郵
の朱印がおしてある)のみ有効で、旧会員証
は無効になりますから注意してください。

スタッフから

★毎週木曜に事務局でやっていたからだの会
をしばらくお休みした為、久しぶりの登場で
す。仕事とあんふふんて、保育園の事などで
休み日もなく動いていたけれど、やっと息つ
ぐ暇ができました。そのかわり、第三土曜に
大田区の婦人会館で午後三時よりやります。
近くの人、月一回ですが来てみませんか。ま
た来月号からからだのおしゃべりコーナーも
書きます。(永田)

編集スケジュールメモ

10月24日(金)	十一月号投稿メロ
10月26日(日)	グループアンケートまとめ
11月2日(日)	十一月号編集会議
11月14日(金)	十一月号発送
11月30日(日)	十二月、一月号編集会議
12月19日(金)	十二月、一月号発送

事務局までの地図

★入会申し込みは切手四百円分同封し、
住所・氏名・電話番号・郵便番号を記入。
宛名は
★参加費は一月月四百円。六ヶ月以上ま
とめて郵便局で。払込先は表紙に。
★事務局の電話受付は原則として月/金
の一/三時です。御協力を。現在の事
務局の電話番号は